

第2回 第2次神崎市総合計画審議会 議事録

-
- 日時：2017年9月22日（金）18:00～20:30
 - 場所：神崎市役所 千代田支所 2-2会議室
 - 参加者：（敬称略）
 - 【委員】佐藤、野副、西原、福山、古賀（義）、吉原、芦原、副島、内村、平島、岸川、姉川、中島、柳川、山田
 - 【事務局（企画課）】宮地、鶴、篠木
 - 【ランドブレイン】山田、岩切、吉山〔記〕
 - 欠席者：（敬称略）
 - 【委員】江頭、古賀（俊）、山本
 - 内容：
 1. 開会
 2. 議題
 - （1）神崎市の現状と課題等について
 - ・神崎市の概要
 - ・市民アンケート結果
 - ・方針別評価
 - ・神崎市の課題
 3. その他
 4. 閉会

（以下議事録、敬称略）

1. 開会

2. 議題

・事務局から議題について説明

（議長）

質疑を求める。

（委員）

市民アンケートは十分に生かしていく必要があると考えている。前回と今回の比較を行い、また、前回のアンケート結果で浮かび上がった課題に対して行った取り組み結果の検証を行い、進歩を確かめることで、これからの計画づくりにうまく反映されるのではないかと考えている。

（事務局）

今回は暫定版としてアンケート結果を共有したが、例えば地区、居住年数、年齢、性別などクロス集計を行うことで、単なる数値結果以上のものが見えてくると考えている。今回は60代以上、30年以上居住している方からの回答が多い。実際に若い人はどう思っているのか、愛着を持っているのか等、深掘りして提示したいと考えている。それを踏まえ、若年層向けの施策を検討出来ればと考えている。

(委員)

いいことよりも悪いことを受けて今後のことを考えるべきだと思っている。また、神埼市の概要については市民に共有されているのか。

(事務局)

参考にしたい。

(委員)

- ・人口増加を図り、神埼市を元気にすることが最重要である。自然現象もあるだろうが、神埼市から出ていきたいという社会現象については、近くにお店がないので佐賀市に行くしかないといった問題があると思う。通勤利便性がいいにも関わらず、定住が進んでいないことは考えるべきである。
- ・大型店舗が神埼市にできなかったのはなぜか考えたとき、地形的条件が悪いからではないかと考えている。アンケートにあるように、気軽に買い物に行ける店舗や若者が集える喫茶店といった憩いの場がないというのは、かねてより指摘されてきた。人口流出を止めるため策を練る必要がある。市民の日常生活を支えるために商業機能を強化する、という言葉は抽象的なので具体化しなければならない。観光を目的に門前広場を作っているが、人が集う場とするにはどうすればよいかを、審議会でも真剣に考えて次の10年に繋げていきたい。口で言うのは簡単でもやるのは難しいが、行政だけではできないことなので、みんなが知恵を出し合っていかなければならない。人口減少と商業活性化については、個人的にどうにかしなければならぬと感じた。

(委員)

- ・人口減少を考慮すると妥当な結果であるとは考える。また、市民に身近でない取組みについては評価が低いのではという印象があった。人口減少が進み様々なことが規模縮小していく中で、厳しい現実を市民に知らせていくことと、そんな状況でも伸びしろがある部分を知らせていくことの両方が必要である。
- ・企業でも従業員へ働く意欲や愛着度をチェックすることがある。3分の1は非常に熱意があるが、3分の2はないものねだりしている傾向があり、どうにかしていきたいとなるが、3分の2の人々に注力した結果、熱意ある3分の1をないがしろにしてしまうこともある。彼らに対し、流出を防ぐように様々な取組みをすることが必要である。
- ・先走った意見かもしれないが、現行計画の概要版を見ると、取組みのメニュー数が多すぎる印象がある。総合計画の方向性はわかるが、優先度を考えて分配重視の指針を示し、引き算型のアプローチをしてみてもどうか。回答回収率の低さは、行政と市民の関わり方、市民がどれだけ市の取り組みを知っているのかという指標であると思う。先ほど述べたように、熱意ある3分の1の人々の声にしっかり耳を傾けていくことがよいまちづくりには必要なのではないかと考える。総合計画そのものにおいて、他市町村との差別化を図ってみてはどうだろうか。

(委員)

- ・人口減少するのは仕方ない。それを認めてマスタープランを検討するのが良いのではないか。
- ・人口が減って困るのは税金が減るからであり、市民の生活の中ですぐには実感に直結しない。行政サービスが手薄になった時に初めて気づくだろう。高度成長期に建

てた施設などを更新せずに、人口規模を考えたバランスを考えるべきである。

- ・高齢者福祉も大事だが、若い人にとって魅力的なまちづくりを考え、今後施策検討をする際には、神崎市が佐賀県で一番子育てがしやすくなるといったような、特化した議論になればよいと考えている。

(委員)

合併当時は 34,000 人であったが、推計上 30,000 人を割る時が来るということで、対策を講じる必要がある。委員が発言したように、どのくらいが神崎市の適正人口なのかを考える必要があるが、人が減れば活力が減るのは事実。一度経験した人口規模までに回復したいという思いがみんなにあると思う。

(委員)

- ・高齢者の買い物や病院に行くアクセス手段が田舎に行くほど厳しいというのをよく聞くが、自動運転カーなど産業発展で克服できるのではと考えている。三菱 UFJ 銀行では AI を使って 9,700 人を削減していると新聞で見た。AI 中心の社会になるなかで、乗り遅れたところはまずくなるという時代が来る。国道 385 号線には大型店舗のトライアルが進出するという噂を聞いた。385 号線は車がよく通り活気があるし、あまり混雑しない。385 号線を中心とした交通網形成してはどうか。
- ・みやき町「子育てはみやき町で」というスローガンを前に出しているのを見ると、神崎市は出遅れていると感じる。神崎市は地区の拠点となる病院がどれだけあるか知らない人が多い。病院や商業、道路、若い人が住みたいと思う住居の確保が人口を左右すると思う。限られたパイをどこの市町村が取るか、という話である。
- ・人口減少について経産省の人に聞いたところ、女性の高学歴化が進み一流企業で出世する人が増えたことで、出産機会がなくなった人が多いということが理由の 1 つであると言っていた。働く女性に時間がないのは事実だと思う。AI を取り入れながら人口減少ストップを考え、総合計画策定を行うべき。

(事務局)

トライアルの出店については情報が入っていないので不明。みやき町は PFI を導入して住宅を建て、ショッピングセンターが近いなど地理的な優位性を活かして定住移住を推進し、育児関連の 2 本柱で総合計画を策定しているのは把握している。しかし、人口減少にとらわれるのではなく、それを事実として受け止め、次の 10 年、その次の 10 年を見据えて計画づくりを行う必要がある。その中で特化したものがあるとよいとは考えているが、あらゆる市民ニーズに答えているとあらゆる施策が生まれてしまい、財源の問題もあるため選択と集中を行っていきながら、計画策定をする必要があると考えている。

(委員)

現状・課題整理を 6 本柱で行っているが、今後もその方法で進めていくのか。これからの計画策定の進め方と併せて伺いたい。

(事務局)

6 つに分けた現状と課題については、現行計画の柱であるためこの枠組みでまとめた。新たな項目を考えることもあると思う。今後大きな柱を考えるとときには、表現の仕方を考えたり、現在のニーズに即した表現に変えることもありえるだろうが、およそこの方向で進んでいく。今後の進め方については今月末から市民ワークショップを開催し、方向性と意見を集めていく予定である。それと並行して、市役所の職員に今後の展望や時流、市民ニーズについて議論し進めていく。市長と語る会に

については、総合計画に生かして今後の展開のアイデアになるようなものを拾い上げ基本構想などの要素に取り入れ、審議会に諮り、進めていきたい。

(委員)

人口減少を中心に話を進めているが、今後は分野ごとについて詳細議論をするのかなど、審議会の進め方は。

(事務局)

どういうやり方がスムーズなのか検討しながら進めていきたい。

(委員)

- ・庁内評価における達成度と、市民アンケートの満足度のかい離が大きい。職員ワーキングにおいては、その要因を検討していただきたい。流出人口など、現在のデータと5年前のものと見比べながら考えてもらえるとよいのではと思う。
- ・鳥栖市ではサガン鳥栖がJ1に上がったことで、スポーツを取り入れた基本構想を作っている。神埼市の現状と課題は神埼市ならではの特異性がなく、同規模都市と変わらない内容ではないかと思う。計画づくりには神埼らしさを取り入れていきたい。県内に2校しかない四年制大学である西九州大学では、学生も市内のボランティア活動にも参加していると思う。そのような数値もピックアップしてもらってはどうか。

(事務局)

- ・かい離の要因の理由については職員ワーキングで考えていきたい。流出流入人口は平成22当時のものもあると思う。過去数回のをさかのぼりながら数値を抑えていきたいと思う。
- ・神埼市だけで高校が2校あり、四年制大学もあり、大きな企業もあるというのは神埼市にとってまちづくりに生かせる要素だと思う。若者の憩いの場・活動の場、学生が神埼市に住んでもらえる仕掛け、最終的には県内で就職し神埼市に住み続けてもらう、という好循環を考えられると思う。現在もCOCプラスという地方創生推進事業も一緒に取り組んでいるため、その点も踏まえながらまちづくりを考えていきたい。

(委員)

大学では認知症予防事業をおこなっており、高齢者が元気で活躍できるまち、健康寿命を延ばすことをは、総合計画でも大事だと思う。

(事務局)

高齢者の活動の推進は今後重要だとおもう。単に人口減少ではなく、少子高齢化と、高齢者が増えていくという側面のなかで、高齢者が元気に活躍できることは施策の議論で考えていくべきと思っている。

(委員)

福祉予算は全体の何割か。

(事務局)

持ち合わせていないので次回はっきりした数字をお伝えしたい。

3. その他

(事務局)

9月30日に市民ワークショップを開催するので、委員には地域の方などを誘って申し込みを行ってほしい。また、本日のように会議の開催は今後も夕方となった場合があってもいいか。

(一同)

異議なし。

4. 閉会

(事務局)

次回審議会は11月ごろとする。

(以上)